

発達障がい

発達障がいは、脳機能の発達に関係する障がいです。発達障がいのある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。

困っていることを理解しましょう

他人との社会的関係の形成が困難であることや興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする広汎性発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群など)や、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝

動性、多動性を特徴とする注意欠陥多動性障がい(ADHD)、基本的には全般的な知的発達遅延はないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す学習障がい(LD)などがあります。



いつもと違っていると不安になります。



コマーシャルの言葉や家族や職場の会話の一部を繰り返して言うことがあります。



大きな音が苦手です。

こんなことに配慮しましょう

発達障がいは、外見から障がいを判断するのが難しく、読んだり書いたりではできないに計算だけがひどく苦手であるなどの場合は、「やる気がない」と責められることも

あります。周囲が障がいについて知ることが、支援の第一歩になります。いろいろな経験や工夫、周囲の理解によって、不安や困難を減らすことが、能力を発揮していく力につながっていきます。



話しかけるときは、ゆっくり短く分かりやすい言葉でお願いします。身振りや絵など目で見て分かる情報があると伝わりやすいことが多いです。あいまいな表現は苦手です。「ちょっと待ってください」ではなく「5分待ってください」のように具体的に伝えてください。

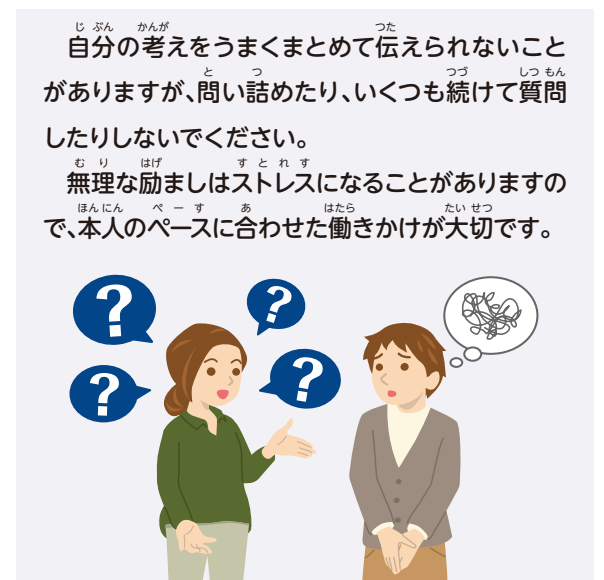
精神障がい

精神障がいは、何らかの精神疾患によって、やる気が起きない、何をやっても楽しめない、勉強が手につかない、眠れないなどのさまざまな症状が現れる障がいです。また、現実にはあり得ないことを信じ込んでしまう(妄想)などの症状がある人もいます。

精神障がいは、脳をはじめとした神経系の病気とも言われており、誰もがかかる可能性のある病気です。治療や服薬、リハビリテーション、そして周囲の理解などによって回復し、安定して地域での生活ができるようになる一方、ストレスや服薬の中断などにより、症状が不安定になることがあります。

困っていることを理解しましょう

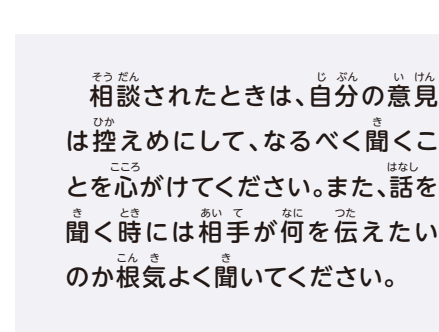
精神障がいは、外見から障がいを判断することが難しいため、障がいによる状態を誤解されがちです。例えば、疲労感が強く、やる気がどうしても起きないという状態に対して、怠けていると周囲から責められることがあります。また、症状に応じて服薬している人も少なくありませんが、薬の副作用である「疲れやすさ」や「朝、なかなか起きられないこと」などを理解してもらえないことがあります。



こんなことに配慮しましょう

人と話すことに対する緊張や不安がとも強く、なかなか自分からは声をかけられないことがあります。また、「どうしたのか

な」などとじっと見られたりすると、「自分を非難している」と感じたりして、その場を立ち去ってしまうことがあります。気付いたら、できるだけ早く「何かお手伝いしましょうか」と声をかけてください。



相談されたときは、自分の意見は控えめに、なるべく聞くことを心がけてください。また、話を聞く時には相手が何を伝えたいのか根気よく聞いてください。